

子どもの本だな 112

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ものぐさトミー

ペーン・デュボア 文・絵 松岡 享子 訳 (岩波書店)

トミー・ナマケンボは電気じかけの家に住んでいます。朝、ベッドから起きるのも、お風呂も機械任せ。服も機械に着せてもらおうし、ごはんも食べさせてもらいます。

ある日、嵐で電気が切れました。7日たってようやく電気が流れるようになると、ベッドが傾きトミーを風呂桶に落としました。ところが、水は冷たいまま。トミーが飛び出そうとしたとたん風呂桶は傾き、トミーは頭から乾燥室に。ベルトで逆さに支えられたまま、熱風を吹きつけられ、電気歯ブラシに足の裏をこすられます。逆さのまま着替え装置に滑り落ち、パンツ、ズボン、靴下…と順に突っ込んでいきました。そのまま食堂につれていかれると、7日分の食事が足の上にそそぎます。バナナ 35 本、りんご 28 個、卵 42 個分の炒り卵…。

トミーの家のさまざまな装置に目が離せません。泣こうが喚こうが、機械のなかでどうすることもできないトミーを白地を背景に軽やかな色合いで描いたユーモラスな絵本です。読んでもらえば 5 歳くらいから楽しめます。(竹内)

越後の昔話 あったとさ

山田 貢 著 (文化出版局)

昔、お金持ちの夫婦が願掛けをし、やっと奥さんのお腹に赤ちゃんをさずかりました。5 か月目の戌の日にお礼参りをした折、蛙を捕まえた蛇を見て思わず奥さんが「蛇や蛇や、蛙を逃がしておくれ。そうすれば私の一番大事なもん、たとえお腹の中の赤ん坊でも、女の子ならお前の嫁にやる」と言うと、蛇は蛙をはなしてどこかに行ってしまいました。娘が 15 歳になった春の日、立派な駕籠に乗った蛇の家来が、婚礼の準備を伝えにきました。母親からいきさつを聞いた娘は、嫁入り支度にひょうたんを千個と太い縫い針千本を用意してもらい駕籠に乗って出かけていきました。(「蛙の恩返し」)

著者が幼いころ祖母に聞き、それを我が子に語り、地元の新聞に連載したものを一冊の本にまとめました。形が整いバラエティに富んだ昔話はとても読みやすく思わず引き込まれます。読んでもらえば 6 歳くらいから楽しめるでしょう。(西村)

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

< 臨時休館のお知らせ >

図書館内工事のため、3月20日(月)~22日(水)を休館します。

- 〔20日(月)は臨時休館〕
- 〔21日(火)は定例休館〕
- 〔22日(水)は祝日の振替〕

尚、工事の進捗状況により休館期間を延長する可能性があります。その場合、館内掲示または図書館ホームページにてお知らせします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

- ▶ ×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。(3/20は臨時休館、3/22は祝日の振替、3/31は館内整理日)
- ▶ 開館時間は 10:00~18:00、金曜日は 20:00 まで開館

『土偶を読む 130年間解かれなかった縄文神話の謎』 竹倉 史人 著

晶文社 347頁 2021年4月刊 1,700円 (請求記号) 210.2

人類学者の著者が、縄文時代の神話について調べていると土偶に目が留まった。土偶のさまざまな仮説に違和感を持った著者は、土偶が何をかたどり、何を目的に造られたのかを明らかにすれば縄文時代の神話の一部を復元することも不可能ではないと考え、土偶研究を始めた。遮光器土偶の、レプリカと画像を並べて見ていると、ふと植物のイメージが浮かんだ。実際に、サトイモ画像とレプリカの手足を重ねるとぴたりと重なり、遮光器土偶はサトイモをかたどったものであると結論づけた。

遮光器土偶は、3200年前〜2700年前に東北地方を中心に製作された。また東北地方では、サトイモ栽培が盛んだったが、冬季のサトイモ貯蔵は寒冷地では難しい。岩手県では掘りあげたサトイモを親イモとともに土中保存し、翌年に種イモとして利用する方法がとられている。しかし、年によって種イモが腐敗することがある。縄文人は、腐敗を「魔的の力」ととらえ、それを防ぐため土偶を使ったのではないかと。紋様をびつしりと施し、ベンガラ塗料で真っ赤に塗った土偶は、病魔の見張り番としてサトイモと共に土中に安置されたのかもしれない。強大な目は魔的な存在へ睨みを利かせているようにもみえる。サトイモ栽培は、最後の種イモが腐敗したことで放棄され、それと同時に遮光器土偶も姿を消した。入れ替わるように、イネとヒエをかたどった土偶が登場する。土偶の変遷は、主食の変遷を示したのではないかと。遮光器土偶が出土している遺跡の土壌や石器などを調査すればサトイモデンプン粒が発見される可能性がある。遮光器土偶のさらなる検証が進むことを望んでいると締めくくる。

他に堅果類、貝類、穀類をかたどった土偶も紹介され、著者のユニークな新説は、読者に土偶を身近に感じさせる。同著者による『土偶を読む図鑑』(小学館)をあわせて読むと更に土偶への愛着が湧いてくる。遮光器土偶のレプリカを我が子のように思い、ベッドで一緒に寝ていたという著者のユーモラスな人柄と土偶の姿が重なり、読み進めるうちに遮光器土偶を手元に置きたくなった。

(盛岡)

3月	3月の移動図書館 (いずれも木曜日です)					4月	4月の移動図書館 (いずれも木曜日です) ※4月より一部変更があります。				
9日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 コミュニティー センター 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50	6日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
16日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20	13日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
23日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20	20日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

地下水

去年の3月に図書館で実習したSさんが、大学図書館で働き始めたという知らせをもらった。図書館には赤ちゃんの時から家族と一緒に通っていたというSさん。太子町立図書館の蔵書で育った彼女が、人と本をつなぐ仕事を選んだということがとても嬉しかった。

中学2年時のトライやるで図書館にきたF君、高校最後の舞台で図書館が人にとってなぜ必要かということを発表したそう。いつも弟や妹と一緒に本を借りに来ていた面倒見のいいY君。デザインの課題が出るとたくさんの図鑑を出して調べていたKちゃん。皆、この春に高校を卒業して新しい道を進み始める。太子町を離れることもあるかもしれないが、これからは彼らの人生のそばに図書館と本があつてほしいと願っている。

今、図書館に通ってくる子どもたちとは、おはなしの時間や工作教室を通してたくさん話をするようになった。この子たちが本を読むことの楽しさを知り、大人になつてからもずっと図書館や本が必要だと思ってもらえるように、これからも様々な本の面白さを伝えていきたいと思う。

(八木)